

# 令和7年度 学校研究 推進計画

## 1. 研究主題

自らの学びを求める生徒の育成（2年次）  
～学びの本能にスイッチを入れる授業づくり～

## 2. 主題設定にあたって

昨年、遊佐中学校では『自らの学びを求める生徒の育成～学びの本能にスイッチを入れる授業づくり～』を主題とし、生徒と教師がともワクワク・ドキドキする生徒が自分事となる企てる授業に取り組んできた。授業の様子から子どもたち同士の関わり合う姿、仲間のヒントから間違いに気付いたり、授業が終わっても自分が納得するまで問題を解いたりと学び続ける姿など多くの成果が見られるようになった。

しかし、学びを求める姿を見られた一方で、昨年と同様に次の学びへと繋がる場所までは到達できなかった。また、非認知能力（生きる力など）は伸びたと感じたが、認知能力（各教科の定着）には課題が残った。知識の定着には、今年度から導入される「A I ドリル」等を活用しながら、個別最適な学びを模索していく。授業では、デジタルにはできない教科の本質的な面白さに迫ることや「なんで？」「どうして？」という疑問から自らの学びを求め、自分の頭で考え深い学びに繋がる生徒の姿を育てていきたい。

そこで今年度は、遊佐中学校で取り組んできた「学びの本能にスイッチを入れる授業づくり」や「教科の本質的なおもしろさを感じ得るような探究的な授業づくり」を行いながら、日常生活から「なんで？」と疑問を持ったり、すぐに答えを求めて学びが終わってしまうのではなく、間違ってもその間違いからヒントを得て次に挑戦したりと、生徒が自らの学びの本能（遺伝子）にスイッチを入れ、もっと学びたいと「学びに夢中になる姿（学び続ける姿）」を見取れる授業づくりを探究したいと考え本主題を設定した。

## 3. 日々の授業・研究推進に臨むうえで共有しておきたいこと

### （1）学習者が夢中になるワクワク・ドキドキする学習過程の工夫（魅力ある授業づくり）

#### ①生徒・教師がワクワク・ドキドキする好奇心が高まるような課題設定

- ・生徒が自分事となる「企む」「企てる」課題
- ・教科の本質を追求するジャンプの課題（ちょい難の課題）の設定

#### ②見通し・学習過程

- ・好奇心だけでは学びは継続しない→幸福感が高まるような学習の仕掛けづくり
- ・新たな課題（疑問、失敗など）からの「探究的な活動」ができるような教科横断的な工夫
- ・自己肯定感を高める内発的動機づけ（自律性・有能感・関係性）の支援

#### ③協働的な学び

- ・生徒が対話し、つぶやき関わりながら進む課題や場面のある授業
- ・聴き合い・学び合い・支え合うグループ学習（4人組 生徒指導の4つの視点）

#### ④見取り

- ・見取りをもとに個に応じた支援の充実

#### ⑤授業のまとめ・振り返り

- ・自分に必要な学習の計画と実行
- ・自分に合ったスケジュール手帳の活用

## (2) 学習者主体の授業づくり（個別最適な学び）

### ①単元の指導計画・評価計画を生徒に明示

- ・生徒自身が単元の見通しを持ち、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるか」の確認
- ・習得、活用、探究場面をバランスよく取り入れた単元計画を生徒と共有
- ・育成する資質・能力を明確にした教科の本質に迫る単元づくり

### ②他教科とのつながり

- ・総合的な学習や他教科、既習事項とのつながりを意識した単元づくり
- ・校外での体験的な学びなど、五感を使つての学びの保証
- ・社会で生きて働く「豊かな学力」を理解することで進路選択のヒントにつなげる

### ③「A I ドリル」等のDXの推進

- ・個のレベルに合った問題からスモールステップで「自分でできた（自己肯定感）」につなげる。

## (3) 主体的な発展学習（家庭学習）

### ①授業と関連付けた発展的な学習の奨励とスケジュールデザインする力と習慣の育成

- ・ホワイトボードによる各教科の予定の管理
- ・日常生活でのスケジュール手帳の活用

### ②「確かな学力」の育成と家庭と連携を図りながらの学習習慣の確立

- ・保護者への学びのプロデュース（本の紹介など）

## (4) 各教科の知識・技能の定着

### ①知識・技能の定着に向けた手段・選択（短期記憶→長期記憶への変換）

- ・覚えたことを、能動的に思い出す、記憶から引き出す（アクティブリコール）

## 4. 今後の予定

### (1) 年3回の校内授業研究会を行う。道徳と教科（五教科と技能教科）の授業を行う。

生徒の姿を見取るために、教科横断的なグループ編成をする

#### ①全職員で参観し、事後研究会は前半をグループで話し合う。後半を森田先生からの指導を受ける。

#### ②提案授業は、5月は技能教科の中から2名、9月は五教科の中から2名、11月は道徳を各学年から1名ずつを選出する。

### (2) 校内授業研究会（指導：山形大学 准教授 森田智幸先生 遊佐町教育委員会）

#### ① 5/26 （月）校内授業研究会① 技能教科 2名 山形大学 森田智幸先生 授業者：

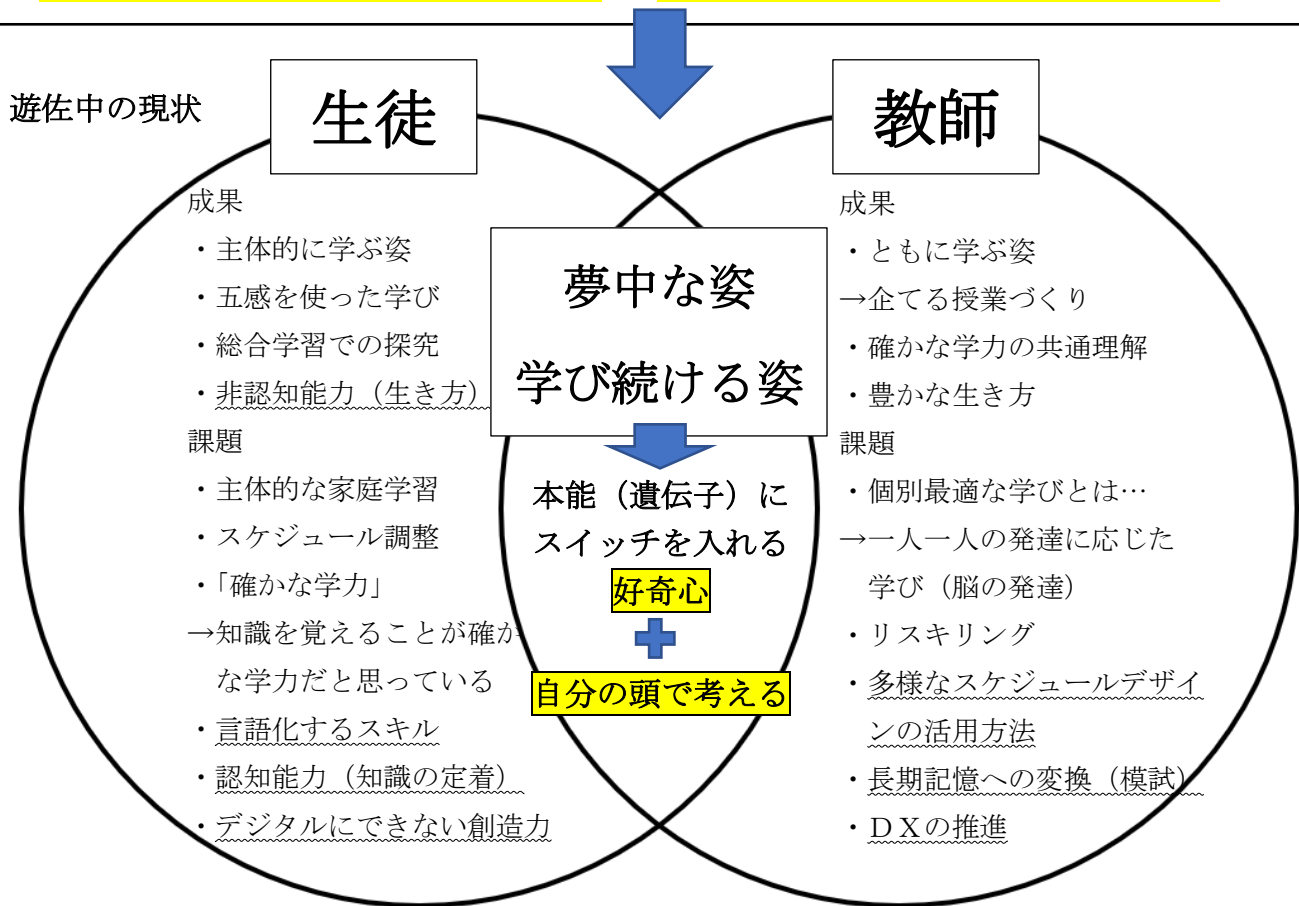
#### ② 10/3 （金）校内授業研究会② 五教科 2名 山形大学 森田智幸先生 授業者：

#### ③ 11/17（月）校内授業研究会③ 道徳 学年各1名 教育委員会に依頼予定 授業者：

## 5 学校研究を考えるにあたって

これからの社会で求められる力（次期教育振興基本計画について（答申）一部抜粋）

「**激しい変化が止まることがない時代**において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通して、持続可能な社会を維持・発展させていく」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」「**起業家教育（アントレプレナーシップ教育）**」「**自らの人生を舵取りする力を身に付けること**」



### 参考文献

- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則
- ・次期教育振興基本計画について（答申）【概要】 令和5年3月8日 中央教育審議会
- ・全国中学研究校便覧 第34集 令和4年6月 全日本中学校長会編
- ・「社会を変える学校、学校を変える社会」 時事通信社（工藤勇一 植松努）
- ・「精神科医がすすめる これからの生き方図鑑」 光文社（樺沢紫苑）
- ・総合型選抜に強い異端の教育（岡田武史） <https://youtu.be/2UtK1P3kv1g?si=iFn5kwHVmcmdCRX8>

### 追加（R7）

- ・初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について 令和6年12月25日 中央教育審議会
- ・第4期 教育振興基本計画 令和5年6月16日 閣議決定 文部科学省
- ・「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会 中間まとめ 概要 中央教育審議会
- ・「同じ勉強をしていて、なぜ差がつくのか？」 ディスカバー携書（石田勝紀）
- ・「まんがでわかる『学力』の経済学」 ディスカバー（中室牧子）
- ・子どもの自己肯定感（石田勝紀） <https://youtu.be/b4dDvu8iG1E?si=yyq-PDwEv0pB3cfJ>
- ・最高の勉強法（安川康介） [https://youtu.be/2nWseMdnT1c?si=kJnHsb\\_CnNlvy8CD](https://youtu.be/2nWseMdnT1c?si=kJnHsb_CnNlvy8CD)